

## 「活字の学びを考える懇談会」の設立趣旨

文部科学省は現在、「学校教育の情報化の推進に関する法律」を整え、「Society5.0」と呼ばれる社会に対応した教育施策を展開しています。この施策はデジタル教科書の開発やAIドリルの促進、児童・生徒1人1台のタブレット配布、全学校をつなぐ高速ネットワークの形成などが特徴です。この方針通り、教育の心臓である教科書が、紙から電子に移動することになれば、学校教育制度は劇的な変化を遂げることになります。

わが国の義務教育は、これまで人類の文化遺産を厳選し、それを次世代に伝える紙の教科書と筆記用具、黒板が主軸でした。9年間の学びを通じて、ほぼすべての子どもが読み・書き・計算をはじめ、社会生活に必要な基礎的な知識や教養、読解力を身に着けました。その読解力がいま、低下傾向にあります。しかし、新聞や本を読む子どもの読解力レベルは高く、今後の教育政策の方向性を示しています。

昨今の教育環境の変化をふまえ、私たちは「活字の学びを考える懇談会」を設置し、①IT（情報技術）への過度の依存を戒め、印刷メディアとのバランスのとれた学校教育を実現すること、②子どもが生活圏で十分な読書機会の恵沢を享受できるよう環境整備を促進し、必要な財政措置を講ずること—その他IT時代の教育政策に関する提言をおこなってまいります。

2020年3月6日